

提言第8号 救急医療における画像診断に係る死亡事例の分析

事例4

< 事例概要 >

- ・ 80 歳代の患者。心窩部の苦しさと呼吸困難があり、日中（土曜日）に救急受診。
- ・ 担当医師の診察時、表情は穏やかで上肢脈圧に左右差なし。心窩部違和感、胸部X 線撮影にて縦隔拡大あり。精査目的で胸腹部造影CT 依頼。
- ・ 他の救急当番医師は別の患者の対応中であり、担当医師一人でCT を確認、急性冠症候群や大動脈解離、肺血栓塞栓症のリスクはあるが、症状消失したため帰宅を指示。画像検査から 1 日半後、咳嗽、呼吸困難を訴え救急搬送され死亡。
- ・ 死因は胸部大動脈瘤破裂。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖 無。
- ・ 画像診断報告書は、急変当日に作成。
- ・ 胸腹部造影CT で上行から弓部大動脈の拡大と大動脈壁に沿った高吸収域を認めた。